

平成26年度 第2回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会 会議録

日 時 平成27年3月3日(火) 午前10時から正午

場 所 大宮盆栽美術館 2階 講座室

出席者 (敬称略50音順)

<委 員>

石上城行(埼玉大学 教育学部 准教授)、老川慶喜(立教大学 経済学部 教授)、大越久子(埼玉県立近代美術館 学芸主幹)、小林正太郎(株JTB関東 法人営業埼玉支店 交流文化事業チームマネージャー)、[代理] 澤田直樹(埼玉県産業労働部観光課 主査)、田端フサ(ぼんさい遊々 副会長)、[代理] 広田正志(東日本旅客鉄道株 大宮支社 営業部 販売課 副課長 宣伝グループリーダー)、森紀与子(盆栽研究家)、吉田俊一(埼玉新聞社 編集局次長兼ニュースセンター長)

<事務局>

柳沼清彦(市民・スポーツ文化局 スポーツ文化部長)、菅建彦(大宮盆栽美術館長)、田口勝一(同副館長)、桑原勝(同参与)、山田登美男(同盆栽管理官)、渋谷仁(同管理係長)、石田留美子(同主事)、林進一郎(同主事)、中村慎太(同盆栽技師)、川田泰則(文化施設建設準備室主幹)

【次第】

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 報 告

- ①平成26年度大宮盆栽美術館事業について
- ②(仮称)盆栽アカデミー基本構想及び基本計画の進捗状況について
- ③新資料の購入・寄贈について

(2) 議 題

- ①平成27年度大宮盆栽美術館事業について
- ②世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

4 その他

5 閉 会

【会議内容】

3 議 事

(1) 報 告

- ①平成26年度大宮盆栽美術館事業について
- ②(仮称)盆栽アカデミー基本構想及び基本計画の進捗状況について
- ③新資料の購入・寄贈について

(意見・質問等)

①平成26年度大宮盆栽美術館事業について

委 員： 出前講座はどのような内容を行っているのか。生の盆栽を展示したいという要望はあるか。

事務局： 出前講座では、プロジェクターを使い盆栽の見方や盆栽の歴史について講義している。確かに生の盆栽を展示したいという希望はあるが、現在は展示していない。

委 員： 入館者数が増えているとのことだが、館として満足しているのか。ハード面はもちろん、ソフト面でどのような工夫をしているのか。また来たくなる、美術館としてのおもてなしを心がけているのか。

事務局： 今後は事業そのものはもちろん充実させていくが、美術館に来る目的として、来館者のグッズ購入や飲食という希望もあると思うので、ブランド化の流れのなかで、美術館で検討していく。世界盆栽大会をひとつの機会として、色々な魅力のある美術館を目指す。

委 員： 開館当時の美術館受付はもっと明るかった。職員の対応を含めて検討して欲しい。近隣への道案内についてもよりわかりやすくなるように検討して欲しい。

事務局： ご意見として今後検討していく。

委 員： 11月の来館者数が多い理由は何か。

事務局： 11月は紅葉シーズンとなり例年入館者数が多いが、今年は特に団体客数が多かった。当館では秋季特別展「盆山展」を開催しており、出光美術館の「盆栽図屏風」の展示等の評判が高かった。団体客がツアー等で来館する際に「特別展を開催している大宮盆栽美術館へ行こう」と思っていたのではないか。

委 員： 団体はどういった団体か。

事務局： 関東圏のツアーを行っている旅行会社や、一般の観光目的が多い。大宮盆栽村とあわせて見学するケースもある。

委 員： 小学校等に行っているのは一定の成果があると思う。現在、中学校では美術の教科書でも「日本の美」を学ぶ機会があるので、活用すべきだ。中学生の利用数が0となっているが、受入れはないのか。

事務局： 中学生の受入れは団体見学ではなく、職場体験として行っている。中学生の職場

体験は年間を通じて行っているがリストに入っていないので、項目として検討する。
また、盆栽体験として今年度より市内小学校において土曜チャレンジスクールでの盆栽教室を始めたのが好評だ。

(2) 議 題

(意見・質問等)

①平成27年度大宮盆栽美術館事業について

委 員：土曜チャレンジスクールは積極的に取り入れるべきだ。特に近隣地域で開催すると、当館事業である「盆栽相談デー」にも参加しやすくなる。

事務局：現在、各区で広く開催している。盆栽技術を広めていくという美術館の目的にも合っている。市長にも、世界盆栽大会までに、さいたま市の10区、各区で盆栽教室を実施したいという思いがある。今後も広く当館事業への理解を広めていく。

委 員：土曜チャレンジスクールの数字はどこに反映されているのか。

事務局：学校連携事業に反映している。

委 員：世界盆栽大会への取り組みとして、国際シンポジウムの主旨が知りたい。特別展で「レジェンド」を取り上げるのは面白いが、期間がふたつあるのはなぜか。

事務局：シンポジウムは、世界盆栽大会への取り組みとして、高階秀爾先生に内諾を頂き、国際的な規模で活躍する盆栽人に参加してもらう。

委 員：連携事業とあるが、ウェブサイトでのPRであるとか、外部との連携、海外向けのウェブサイトとの連携はどうか。PRのやり方、連携によって、さらなる集客につながる。

委 員：以前話題になったかと思うが、動画配信、編集はどうか。

事務局：当館ウェブサイト動画公開はしていないが、Facebookでは動画を公開している。

委 員：一般来館者のアンケートは集計しているのか。満足度は低くないと思うが、批判的な内容もあるかと思う。そのなかから、外部の人が自分たちの美術館をどう思っているかを知る機会になる。外部から受けた意見に対して、改善することは行っているのか。改善しないのであれば、意見を受けてどのように対応しているのか公開しているのか。

事務局：これまでの来館者の意見として、盆栽の写真を撮りたいという希望や、キャプション内容の充実、盆栽の樹齢が知りたいという希望があった。

委 員：全部でなくてもいいので、盆栽の樹齢や情報について知りたい。

事務局：ある程度の経験から、樹齢がわかる盆栽もある。ただし、盆栽は寒冷地や温暖地によっても異なる。基本的に盆栽は高山植物なので、我々が考えている以上の樹齢

である場合が多い。例で言うと三代将軍の五葉松は既に 500 年であるとか、参考資料がありわかるものもある。蝦夷松、五葉松は樹齢が長いものが多い。真柏などは 50 年くらい培養してみると、年輪が直径 10～20 センチ程度で樹齢 500 年以上のものもかなりある。一般的にはどれくらいの樹齢かといえるが、当館が推定樹齢をだしていない。キャプション内容については、現段階では勉強不足の部分もあるが、盆栽鉢の情報について充実させていきたい。当館の盆栽鉢には、江戸時代の鉢も多く、中国や日本、産地がわかるものもある。今後は作家名も明記して、作品として盆栽鉢の価値が高まるようにしていく。

委員：建設的な意見として対応して欲しい。

委員：音声ガイドだが、利用してみたが同じような内容が続いて平凡だった。キャプションの内容もそうだが、各盆栽の所有者は誰であったか等、各盆栽の持つ歴史を感じられるようなエピソードを来館者に伝えるべきでは。盆栽の変遷がわかる、古い写真も公開してみてもいい。

事務局：大きな盆栽については旧高木コレクションとして、旧岩崎家、大隈重信等の所有者がはっきりしている盆栽もある。来館者の質問に対して正確に答えられる資料が必要だ。美術館には、日本人の盆栽に対する愛情や独特の文化を伝えるという役目もある。

確かに、各盆栽のもつストーリー性、歴史性をテーマにした展示をすると来館者が増えているように感じる。盆栽だけ見る人もいるが、盆栽のもつ歴史的な側面を見る人もいる。来館者数が増えたことに影響している。

委員：広報活動では、外国人も大事だが、地元も大切にしたい。北区民まつりの盆栽展示では計 230 鉢の盆栽が集まった。大宮駅東口に新しくできた商業施設はトレードマークが盆栽になり、館内が盆栽のマークであふれている。大宮駅を出たら盆栽が目に入るように PR したい。

委員：大宮駅ではデジタルサイネージとして大宮盆栽美術館の情報を放映している。大宮は、盆栽、鉄道が有名で魅力が伝わっている。あらゆる媒体を使って、盆栽を PR している。川越さいたまスタンプラリーでは大宮盆栽美術館にもスタンプを設置し、7 支社で PR した。ひとりでも多くの人に大宮盆栽美術館を訪れてもらえればと思っている。

②世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

委員：国際シンポジウムでは、盆栽の展示は行わないのか。

事務局：現在、会場を交渉している段階だが記載していないが、盆栽の展示、盆栽のデモンストレーションを検討している。

委員：都内で開催するのもいいが、さいたま市内での周知も必要。さいたま市民にも情報を伝えて欲しい。国際シンポジウムは参加無料なのか。

事務局：無料と考えている。世界各国から多くの方に参加してもらいたい。

委員：世界盆栽大会へ向けてのPRだが、狭く深く、広く浅くというのではなく、狭く広いPRをして欲しい。大宮盆栽美術館の強みとして、「伝統」「文化」がキーワードとなる。その意味で、平成26年度に行った「岩槻人形」とのコラボレーションが「文化」とコラボレーションした一例になる。さいたま市周辺とのコラボレーションとして「伝統」「文化」を意識して欲しい。実はさいたま市には酒蔵という文化の強みもある。食や飲料といった文化をコラボレーションしてさいたま市の強みを日本の強みにして欲しい。

事務局：大変参考になる。世界大会の時はより大きい規模になるが、国際シンポジウムの際には、同時期に都内の美術館で国際盆栽展示の予定もある。外国から盆栽を運ぶのは難しいが、海外の人が日本に来たときに、盆栽の資料や映像での展示を予定している。シンポジウムにあわせたイベントをどう美術館で行うのかも課題である。

委員：シンポジウムに限らず、コラボレーションは有意義だと思う。今年度埼玉県観光課では、ユネスコ無形文化遺産に登録された小川町の細川紙で知られている埼玉県伝統工芸会館とコラボレーションしたイベントを考えている。「伝統」をコアにしたコラボレーションを前向きに検討して頂きたい。

事務局：さいたま市スポーツ・文化部では平成28年にさいたまトリエンナーレ国際美術展も予定している。盆栽、鉄道といった地元の文化を広く伝えたいと考えている。市長もさいたま市民125万人が参加するトリエンナーレにしようといろんなコラボレーションを考えている。

また、平成27年、28年の2か年計画で記念誌である美術本の制作・発行も予定している。来館者のおみやげとしてもだが、後世に残る資料としたい。詳細については事務局の検討課題としたい。世界盆栽大会については、市民参加型のイベントはどのようなものができるのか、展示点数が少ない盆栽庭園についても、より充実した盆栽展示を行いたいと考えている。

委員：学芸会議についてはどうか。

事務局：学芸会議は運営委員会の下部組織となる。年に2～3回という規模で、事業そのものの内容等について検討する機会を設けたい。

委員：年2～3回の回数は妥当か。

委員：本務に支障をきたすことがあってはいけない。

委員：事業内容そのものについてというより、情報交換の場になればと思う。

委員：その他について何かあるか。

委員：盆栽相談デーの情報が市報に掲載されない。なぜ載らないのか知りたい。

事務局：市報掲載については広報課のルールがあり、掲載期間等が定められている。今後は市の広報課とより連携をはかっていく。

委員：大宮盆栽美術館ウェブサイトを見たら、展示、イベント等の情報が順不同に掲載

されている。日付順でもない。いつ行ったら何を見られるのかが明確でないので、よりわかりやすく整理して欲しい。

事務局：現在、ウェブサイトリニューアル準備を進めており、今後はよりわかりやすく整理されたウェブサイトになる予定だ。

以上